

静岡県警少年課の監修のもと

子どもたちの「自画撮りトラブル」を防ぐための教材を開発

－3/2 に静岡市立清水飯田中学校で公開授業を実施－

国立大学法人静岡大学教育学部塩田研究室（准教授：塩田真吾）は、静岡県警少年課の監修のもと、子どもたちの「自画撮りトラブル」を防ぐための教材を開発し、3/2 より無料で公開いたします。

現在、子どもたちが自分の裸や下着姿を撮影し、その画像等をメッセージ等で送ってしまうという「自画撮りトラブル」が大きな問題となっています。令和3年中、静岡県内においても、児童がだまされたり、脅されたりして、自分の裸体を撮影させられた上、メール等で送られる被害に遭った児童や、自身の裸体の画像データを、児童自らがSNS上に投稿して県警に検挙された児童がいます。

一方、こうした自画撮りトラブルについては、県警による取締りの強化に加え、継続的に啓発活動が行われていますが、その多くが「危険性を伝えて、怖がらせる」という教育方法のため、子どもたちが「自分には関係ない」と他人事になりやすいという課題がありました。

そこで塩田研究室では、静岡県警少年課の監修のもと、「場面強制想像法」を用いた教材を開発いたしました。本教材では、「自分が自画撮りを送ってしまうシチュエーションを考える」（場面強制想像法）というワークを行うことで、「もしかしたら自分も自画撮りトラブルにあってしまうかも」という自覚を促し、それらの場面での「断るスキル」を身につけることを目的としています。本教材は、3/2 より静岡大学教育学部塩田研究室のホームページ上で公開し、教育関係者や警察関係者は無料でダウンロードしてご活用いただくことが可能です。

なお、本教材を用いた公開授業を3/2 に静岡市立清水飯田中学校において実施しますので、報道関係者の皆様におかれましては、ぜひ取材をお願いいたします。

■公開授業

日時：2022年3月2日（水）13時15分受付

場所：静岡市立清水飯田中学校（静岡市清水区山原 112-1）

当日の流れ：

13:15	受付
13:35	公開授業の実施（2年生） 授業者：清水警察署 スクールサポーター 大森哲夫
14:25	別室へ移動
14:40	趣旨説明、開発の経緯、開発のポイントについて 説明者：教育学部 准教授 塩田真吾
15:00	質疑応答
15:30	終了

■取材申し込み：

3/1（火）16:00 までにメールでお申し込みください。（必ず申し込みが必要です）

①貴社名、②担当者名、③参加人数、④連絡先

shizuoka.shiota.lab@gmail.com（担当：塩田）

※新型コロナウイルスの感染状況によって公開授業が中止となる場合もございます。ご了承ください。

■本件に関するお問い合わせ先

●静岡大学 教育学部 准教授 塩田真吾

TEL：054-238-4673（090-7266-2105）

●静岡大学 広報室

TEL：054-238-5179

Mail：koho_all@adb.shizuoka.ac.jp

■教材のイメージ

考えてみよう 自分が送ってしまいそうなシチュエーションを考えよう。

シチュエーションワードを丸で囲み、送ってしまいそうなシチュエーションを2つ作りましょう。
(1つの項目から複数選択することも可能です。)

1番目に送ってしまいそうなシチュエーション

どんな	① 年上の ⑥ 好きな ⑩ 複数の	② 年下の ⑦ 好きだった ⑪ 同じ学校の	③ 部活の ⑧ 仲の良い ⑫ 他校の	④ 怖い ⑨ 信頼している ⑬ 塾の	⑤ SNSで知り合った ⑭ 弱みを握られている ⑮ 人気のある
だれに	⑯ 男の人 ⑳ から	⑰ 女の人 ㉑ と	⑱ 先輩 ㉒ に	㉓ 後輩 ㉔ の	㉕ 同級生 ㉖ 先生
どのように	㉗ 自分の体のことを相談したら ㉘ ○万円あげるからと言われて ㉙ 生配信をしている時に ㉚ 過去の恥ずかしい写真や情報をばらまかれたいくれば ㉛ とっておきの情報を教えてあげるから	㉜ 2人だけの秘密と言われて ㉝ 私(僕)の写真も送るから ㉞ 個人情報を公開されたいくれば ㉟ 水着や下着の写真を撮って送るように言われた ㊱ 水着や下着の写真を投稿した	㊲ 2人だけの秘密と言われて ㊳ 私(僕)の写真も送るから ㊴ 個人情報を公開されたいくれば ㊵ 水着や下着の写真を送るように何度も言われた	㊶ 罰ゲームで ㊷ 気をひくために ㊸ ふざけて ㊹ いいねがほしいくて ㊺ 顔は出さないでいいから	

Fig1. 自分が「自画撮りを送ってしまうシチュエーション」を考える（場面強制想像法）



Fig2. 「断るスキル」を身につける